

CHIHOMEN NEWS

関西サイクリング観光振興 (フォローアップ成果編)

【その1】
播磨圏で初！
ヒルクライム大会を開催！



【その2】
関西2大サイクリングルート
ビワイチ×アワイチ連携が実現!

全国的にサイクリング人気が高まる中、**関西地域は自転車観光が特に人気の地**となっています。

地域のため、地方創生支援に取り組む当局にも、昨年より関西各地から、自転車観光振興に関するニーズが集まるようになり、当局としても、地域活性化に繋がればと、主に地域間、官民間のパイプ役として支援を続けてきました。

今回は、これまでお手伝いさせていただいた企画後、動き始めた各地域の様子、形として見えてきた成果をご紹介します。

【その1】

播磨の強みを活かした『ヒルクライム大会』開催が決定

まずは、姫路市を中心とする8市8町の播磨連携中枢都市圏です。昨年、自転車観光振興の取組みを始めた当地域を支援しようと開催したセミナーをきっかけに、参加者からヒルクライム大会が企画提案され、この企画案を地域につなぐことで、今年7月1日に神河町での開催に至りました。

(※) ちほめんNEWS VOL3号を参照



～セミナーをきっかけに 参加者から企画の提案～

セミナー開催の翌月、セミナーに参加いただいた但陽信用金庫の破魔副部長より、当局に企画書を共有いただきました。



但陽信金 破魔副部長

企画は、播磨圏内におけるヒルクライム大会の開催案であり、これはセミナー講師（守山市山形部長（当時））からのアドバイス『今後、播磨圏でも自転車観光振興を追求するにあたっては、**地域の立地特性や観光資源など「強み」を活かす**』を参考にしたものでした。播磨圏の強みは、やはり、**山間地の起伏に富んだ地形であり、これを活かした取組みを行いたい**との思いからの企画でした。

実際、セミナー当日の地域関係者による「今後の取組みについて考えるワークショップ」においても、播磨圏の強みである、播磨の地形、標高差は話題になっていました。

【企画案の概要】

『はりまクラスター型サイクリスタイルにおける圏域内でのヒルクライム大会』

- ・山を活かしサイクリストの注目を集める取組み
- ・2カ月毎の全4戦『播磨ヒルクライムツアー』
- ・自治体単独および自治体連携の各1回開催
- ・4大会での累計ポイントで総合チャンピオンを決定
- ・トップ3に地元特産豪華景品

【狙い】

- ・自治体の施策実施のためだけの召集にならない仕組み
- ・事業実施後、収益につなげることができる仕組み



～地域フォーラムでの企画案の発表～

せっかく当局にいただいた企画案を実現できないか。

セミナー開催にも協力いただいた**播但沿線活性化協議会の代表小野氏**に当企画を紹介し、**当協議会が毎年開催しているまとめのフォーラムで発表の場をいただきました。**

フォーラムには地域住民や自治体関係者ら約100名ほどが集まり、企画を提案いただいた**但陽信用金庫の破魔副部長**が直接みなさんに発表されました。



～神河町でのヒルクライム大会開催へ～

当日、フォーラムには神河町長も参加されており、当企画の説明を聞き興味を持たれました。**神河町は、峰山高原スキー場で冬場は盛り上がっているが、夏場の観光の決め手で迷っていたとのこと。この地域資源を活かした企画に賛同いただきました。**

その後、神河町観光協会、これまでの繋がりから賛同いただいた協賛企業、但陽信用金庫の協力もあったことから、開催に向けてスムーズに話が進み、**平成30年7月1日の大会開催に至りました。**



当局としても、**期待するのは地域（自治体・企業・住民）の自走**であり、自転車観光の取組みを始めた播磨圏でも、**セミナーをきっかけとして、地域や人の繋がりから、地域が動き始め、形として大会が開催に繋がったことを嬉しく思います。**

今後もこれを皮切りに、播磨圏の他地域でもシリーズ開催となればとの思いです。

【その2】

関西2大サイクリング ビワイチ、アワイチ連携！！

次の地域は、関西のサイクリングルートとして人気を集める琵琶湖と淡路島です。

昨年の夏、当局が琵琶湖を自転車一周する「ビワイチ」に取り組む守山市から淡路島を一周する「アワイチ」との連携要望、パイプ役としての要望を受けたことから始まりました。その後、各々の地元事業者や協議会、地域金融機関などを交えたワークショップや互いのサイクリングルートの視察などを重ねてきた結果、**平成30年9月19日、共同PRなどの連携合意の発表**に至りました。

○サイクリング観光振興のセミナー・ワークショップ (平成29年12月14日)



彦根市でのWSの様相



両地域を繋ぐために開催したワークショップでは、滋賀県・淡路島の自治体担当者が初めて顔を合わす場となりました。**民間事業者（自転車業界、IT関連業者、協議会等）の方にも参加いただき、連携に向けた課題、実現に向けて自由な意見交換を行いました。**

(※) ちほめんNEWS VOL10号参照



○滋賀県守山市、淡路県民局、近畿財務局の3者で連携に向けた意見交換会（平成30年4月16日）



近畿財務局での意見交換会

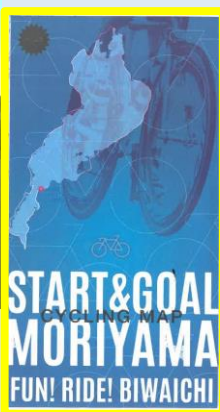
ワークショップ翌月から早速、連携に向けた具体的な内容についての打合せを開始。4月には淡路島3市の窓口として、**淡路県民局も参画、滋賀県守山市と近畿財務局の3者で連携のための意見交換会**を実施しました。

○滋賀県守山市視察（平成30年7月2日）



守山市で宮本市長を交えての意見交換

淡路県民局・
淡路市・洲本市・
南あわじ市の観光担当、
サイクリング推進担当、
道路整備担当などが
滋賀県を視察



○淡路島視察（平成30年8月3日）



滋賀県道路交通部
担当者、守山市が
淡路島を視察



淡路県民局で意見交換

○ビワイチ、アワイチ共同連携PRへ（平成30年9月19日）



共同連携の発表の様様



共同ブースでのPRの様様

守山市から淡路島との連携要望を受けて約1年。守山市役所にて**共同連携の発表**に至りました。この発表に向けて**両地域は、共同連携PRチラシ・ポスターを制作**。これらを全国の自転車販売店に配布するほか、共同PRの第1弾として淡路島で行われた「2018淡路島ロングライド150」（平成30年9月24日）で共同ブースを構え、サイクリストらに両地域をアピールしました。

今後も各地のイベントでの共同PRのほか、共同でICTを活用した環境整備も検討予定であり、『**ビワイチを走ったら次は、アワイチへ**』となるような仕掛けづくりをスタートさせていきます。

○メディア・自転車店の反響、波及効果

今回の連携は、各種メディアにも多く取り上げていただきました。

そしてチラシやマップが届いた自転車店の店頭には、早速マップが並べられ、また多くの人々が自発的にSNSやブログでも当情報を発信してくれています。情報を必要とする利用者の元へ確実に情報が届けられる嬉しい効果が波及的に広がっています。

今回の取組みは、自治体からの要望に始まり、**同じ自転車観光振興に取り組む地域が争うのではなく、戦略的な連携が有効と考え、地域間、官民間をつなぐ役割として広域連携を支援してきました**。目に見える形として成果に繋がるまでには時間がかかりましたが、**地域連携の成功のカギも、人と人、地域のキーパーソンとの繋がり、プラスの「工夫」次第であることを改めて実感しました**。

あなたの地域でも地方創生に関するご要望がございましたら下記の宛先までお問い合わせください。

近畿財務局・総務課企画係

06-6949-6390

kinzaikikaku@kk.lfb-mof.go.jp

ちほめんNEWSのバックナンバーは

下記URLからご覧になれます。

<https://lfb.mof.go.jp/kinki/chiiki.html>